

第 1 回教育・人づくり部会における主な意見等について

○…第 1 回部会意見 ●…他部会の委員・専門部会に属さない委員からの意見

目指す姿 1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成

- DXハイスクール・ラボラトリー事業に大きな予算が付いている。これがうまくいくと、教育のリニューアルが非常に進むと期待している。(廣田委員)
- 学校が大学や企業の協力を得る際、現在は、先生の個人的なツテに頼る場合が多い印象を受ける。県内にどのような人材がいて、どのような学習活動を展開できるかが分かるリストのようなものがあると、先生方の助けになると思う。(廣田委員)
- 学生は、インターンシップ先を就職先として強く意識する傾向にある。県で情報を一本化し、学生生徒と企業とを結び付ける場を作ってはどうか。(荒木委員)
- 理系への女性進学に対する対策を検討してほしい。(廣田委員)
- 科学の甲子園など、色々なことにチャレンジする女子生徒も増えてきているが、まだまだ偏見や固定観念を取り除いていく必要があるので、啓発的な活動も大事である。(佐藤部会長)
- 子どもの頃に経験する田植え作業などの原体験は、生産者への感謝と米のありがたみなどを学ぶきっかけになると思う。(農林水産部会：佐々木委員)
- 特に子どもや女性に対して、林業の体験学習等の機会を増やすなど次代を担う人材の確保・育成の対策が必要と考える。(農林水産部会：齊藤委員)
- 一次産業の働きがいや良いところを感じてもらえるようなイベントや教育、子どもたちへの体験学習が必要と考える。(農林水産部会：齊藤委員)
- 県内在住で観光業への就職を希望する若い世代はどの程度いて、その方々が何をきっかけに観光業に興味を持つのか気になっている。人と触れ合うことが好きな方が観光業に就けるよう、幼少期からの人材育成を進めていければ良い。(観光・交流部会：黒川委員)
- 女子高生向けの将来のキャリアなどについて考えるワークショップなど、未来を担う女性たちに対する教育に取り組むべきではないか。(未来創造・地域社会部会：石田委員)

目指す姿 2 確かな学力の育成

- 少子化は、問題ではなく、現象の一つとして捉えた上で議論していく必要がある。(高橋委員)
- 30 人程度学級編成は、先生が目が一人ひとりの児童生徒に行き届き、不登校の防止にもつながる効果的な取組である。(高橋委員)
- 予算の関係もあるが、例えば、小学校低学年のうちは、1 学級の人数を減らすなど、柔軟性をもったクラス編成ができれば、より先生が働きやすい環境にもなるし、子ども

もにとっても良い環境になると思う。ぜひ秋田らしい学級編成を考えていただきたい。
(高橋委員)

- 児童生徒1人1台端末について、家庭で安心して使用できるよう、どのようなソフトウェアを使っていて、どのようなセキュリティ対策が行われているかなど、積極的に情報発信すべきである。(荒木委員)
- 秋田は、地域との距離が近い教育を行っているので、こうした環境を生かし、休み時間に地域の人たちが子どもたちを見守るなど、PTAだけではなく、もっと幅広く、地域全体で子どもたちを見守りながら、教員の休み時間を確保し、働き方改革を進めてはどうか。(荒木委員)
- 高校で、給食や学食を提供する、学生寮を整備する、交通アクセスをシームレスにするなど、周辺環境を整えることにより、地域が育ち、全体として教育が充実していくと思う。(高橋委員)
- 不登校対策としてのICT活用(リモートでの授業参加)は、学校が遠い生徒や冬場雪の影響で登校が難しい生徒も利用できるのではないかと。リモートでの年間授業回数など文科省からの規定もあるかと思うが、県全体での取組が難しければ、モデル校において行い、学校側・家庭からの意見を聴き、検証・調査を行うことも必要ではないか。(荒木委員)

目指す姿3 グローバル社会で活躍できる人材の育成

(意見なし)

目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成

- コロナが収束し、オンライン授業が全く行われなくなってしまったが、タブレット等を使って、不登校で学校に行けない子どもたちがオンラインで授業に参加できる仕組みを採れないか。(荒木委員)
- 不登校の子どもがいる保護者と学校の間でコミュニケーションがうまくいかない事例をよく聞く。現在は、「希望すれば」カウンセラーにつなぐというスタンスであるが、学校・カウンセラー・保護者の三者面談を初期段階で行い、その後2週間又は1ヶ月単位で定期的に三者面談を行うことをシステム化してはどうか。(荒木委員)
- 学校がある時間帯に不登校の子どもや保護者に、図書館や美術館・博物館など、地域の施設の一角を開放し、「居場所」を提供してはどうか。(荒木委員)
- 教育留学制度を活用し、いじめや不登校で悩んでいる子どもが、校長裁量で転校できる仕組みを構築できないか。(荒木委員)
- 学びの多様化学校を設置する自治体が増えてきているので、秋田県においても、今後検討する必要があるのではないかと。(廣田委員)
- 学びの多様化学校を設置するにしても、秋田県は面積が広く、冬場は送り迎えが困難であることから、オンラインで授業に参加できるシステムを採り入れてはどうか。(荒木委員)
- 調査結果によると、子どもの体力が落ちているので、公園など、体を動かして遊んで、体力を付けることのできる場所を提供してあげたい。(廣田委員)

- 部活動の地域移行について、関係者への説明不足を感じる。進めるに当たっては、もう少し細かな配慮が必要である。(観光・交流部会：守屋委員)
- 健康寿命の延伸の取組で、子ども健康会議を企画しているが、子どもから、大人・親に対する健康づくりに関する意見は有効であると思われるし、子どものうちから健康を考えることは必要である。(健康・医療・福祉部会：石場委員)

目指す姿5 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化

- 「高校生の県内進学推進事業」について、オンデマンドで配信してはどうか。(廣田委員)
- 当該家庭で初めて大学に進学する子ども（ファーストジェネレーション）は、家族の理解や協力を得にくいケースがある。賞与型の奨学金などの支援があっても良いのではないか。(荒木委員)
- 大学に進学することの実際や意義が、広く理解されることが重要である。(佐藤部会長)
- 県北・県南に、大学等の高等教育機関が足を向け、対面でも空気を感じていただくことが必要である。(佐藤部会長)
- 奨学金の情報をまとめたポータルサイトがあるとよい。県で予算をかけなくとも、当該情報をプリントアウトして、中学校や高校に配るという方法もある。(高橋委員)
- 現在、大学授業料の値上げについて奨学金とセットで議論されており、中間層の学生の負担増が危惧されている。何らかのフォローアップを考えていく必要がある。クラウドファンディングも含め、色々な方法で資金を集めることも考えられる。(佐藤部会長)

目指す姿6 生涯にわたり学び続けられる環境の構築

- 秋田県は47都道府県の中で、最も重要無形民俗文化財の多い県である。重要無形民俗文化財をはじめ、民俗行事は観光コンテンツとして認められているため、すぐに経済効果に結び付かない場合もあるが、そういった認識は必要である。(観光・交流部会：豊田委員)